

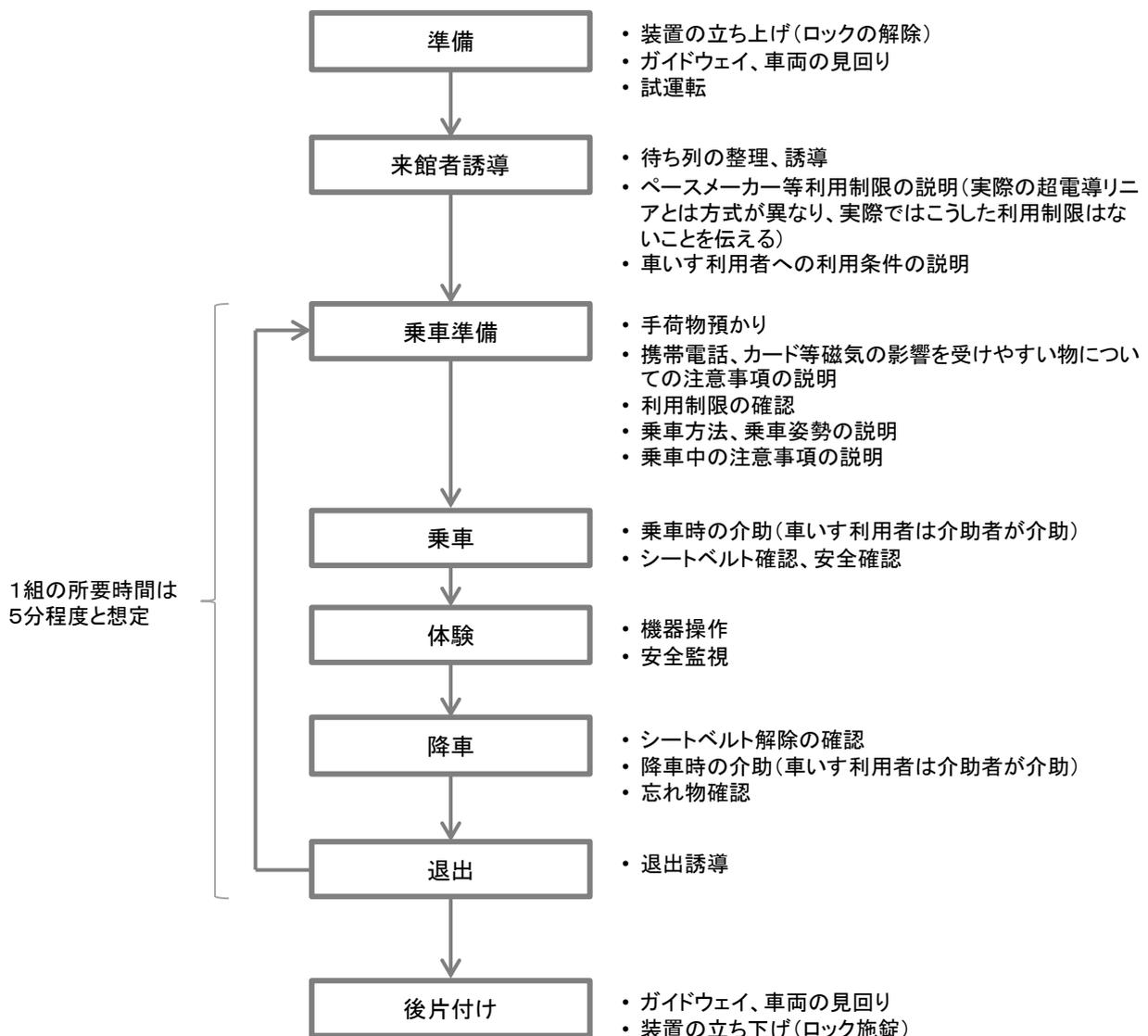
## 展示コーナー別運営業務

## 1 各コーナーにおける運営業務

フロア	コーナー	運営業務
1 階	受付	<ul style="list-style-type: none"> <li>●受付・総合案内               <ul style="list-style-type: none"> <li>・来客受付、取り次ぎ</li> <li>・館内案内、周辺地域観光案内、交通案内</li> <li>・問い合わせ対応</li> <li>・パンフレット配布</li> </ul> </li> <li>●チケット販売               <ul style="list-style-type: none"> <li>・チケット販売、現金收受</li> <li>・領収書発行</li> <li>・減免内容等の案内</li> <li>・チケットベンダーの管理、用紙補充等</li> </ul> </li> <li>●来館者属性調査               <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート配付、記入依頼</li> </ul> </li> <li>●入館制限等               <ul style="list-style-type: none"> <li>・入館制限(泥酔者等)</li> <li>・持ち込み禁止(ペット、傘等)</li> </ul> </li> <li>●再入場者管理               <ul style="list-style-type: none"> <li>・チケット日付確認</li> </ul> </li> <li>●その他               <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いす貸し出し</li> <li>・手荷物(ロッカーに入らないもの)の一時預かり</li> </ul> </li> </ul>
	実験車両・大型映像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験車両の内部巡回</li> <li>・待ち列の整理、車両の出入りの誘導</li> <li>・展示案内、質問対応</li> <li>・車イス誘導(車両内に入れる幅の車イスを準備しておく。来館者は乗り換えて車両内を見学し終了後返却する)</li> </ul>
	リニア開発の歴史	・展示案内、質問対応
	キッズコーナー	・巡回、遊具等の整頓、応急清掃
	授乳室・こどもトイレ	・巡回、応急清掃
	走行試験情報モニター	・質問対応
	ミニリニア体験乗車	(後述)
2 階	超電導リニアの仕組み	・展示案内、操作案内、質問対応
	超電導リニアの仕組み映像	・展示案内、質問対応
	リニアで GO	・展示案内、操作案内
	超電導コースター実験	(後述)
	超電導コイル実験	(後述)
	ワークショップ	(後述)
	走行試験情報モニター	・質問対応
	屋外見学テラス	スタッフの管理課のもとで運用する
3 階	リニアジオラマ	<b>【プログラムはタイマースタート】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待ち列の整理、誘導</li> <li>・注意事項のアナウンス(写真撮影、手すりに乗り出す、展示品に触れる等)</li> <li>・展示案内、質問対応</li> </ul>
	シアター	<b>【プログラムはタイマースタート】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待ち列の整理、誘導</li> <li>・注意事項のアナウンス(写真撮影、携帯電話等)</li> <li>・展示案内、質問対応</li> </ul>
	山梨断面リニア模型	・展示案内、操作案内、質問対応
	見学ラウンジ	・巡回、応急清掃
	走行試験情報モニター	・質問対応

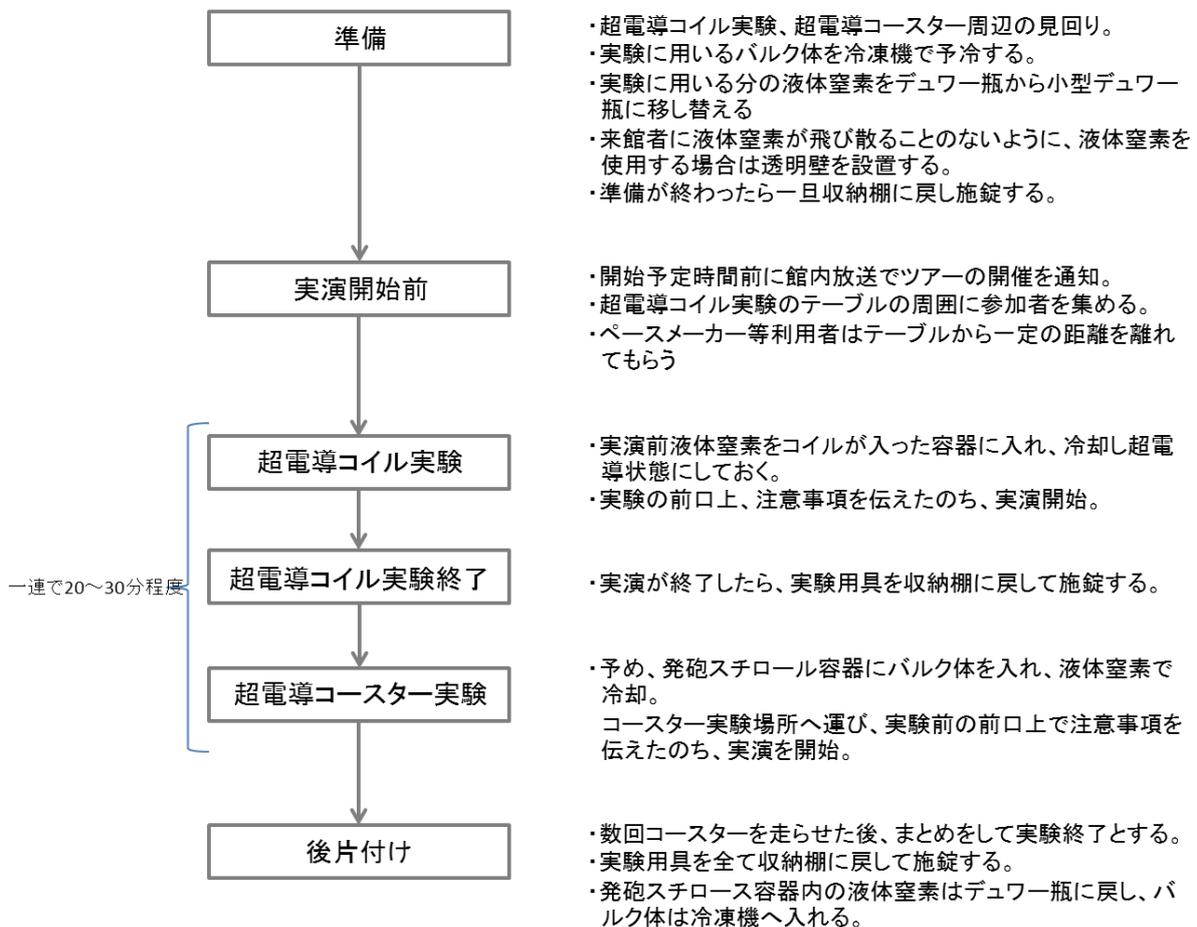
## 2 ミニリア乗車体験の運用

- 必ず、スタッフの管理の下で運用する。
- 車いす利用者については、本人と介助者で安全に乗り降りが可能な場合のみ体験可とする。
- ペースメーカー等を利用している方の体験は不可とする。
- 1回の乗車は1.5人(大人1名、こども1名)を上限とする。
- 合計体重の制限は100kgとする。
- 乗車中はシートベルトを義務付ける。
- 携帯電話、カード等磁気の影響を受けやすい物については、手荷物に入れて預けることを推奨するが、持って乗る場合は車体の床・壁からできるだけ離すようにアドバイスする。
- スタッフは適宜、展示物の解説を行い、来館者からの質問に答える。
- 立ち入り禁止エリア内に来館者が入ろうとした場合は注意する。



### 3 超電導コイル実験、超電導コースター実験の運用

- 必ず、スタッフの管理の下で運用する。
- スタッフの実演によるレクチャー形式とする。
- 超電導コイル実験・超電導コースター実験の2つを一連のプログラムもしくはそれぞれを適宜実施する。
- プログラムは開催時間を決めて実施するものとし、その時間は事前にアナウンスしておく。
- 上記とは別に予約団体を対象としたプログラムも実施する。
- 液体窒素、ネオジウム磁石を利用するプログラムであるため、実演に習熟し、適正な管理と利用を行う。
- 実演に用いる器具類は、使用時以外は施錠できる棚に収納しておき、使用時も来館者が勝手に触れることのないよう十分に配慮する。



#### 4 ワークショップの運用

- 電気磁気工作などのワークショップ、各種イベント、学校利用の際の昼食場所など多目的に活用する。
- 原則として、スタッフの管理の下で運用する。
- 電気磁気工作などのワークショップでの活用を例に運営フローを整理する。
- ワークショップは開催時間を決めて実施するものとし、その時間は事前にアナウンスしておく。
- 上記とは別に予約団体を対象としたプログラムも実施する。

